

書評

四元秀毅, 山岸文雄 著

医療者のための結核の知識 (第3版)

結核予防会結核研究所所長

石川 信 克

本書は、医師、看護師・保健師等の医療者に必要な結核の知識を網羅した読みやすい解説書である。感染症法統合後の初の改版で、思わぬときに結核患者に遭遇する可能性のある現在の状況で、いかに早く診断し、適切な治療を行い、周囲へのまん延を防ぐか、まさに第一線の医療者のための簡易手引き書といえる。

著者のお二人は共に、東京病院、千葉東病院という代表的な国立病院機構の院長で、豊富な結核診療の経験に基づいて日常診療に必要な知識や手順の内容が整理されている。

最初の第2章は基礎編で、結核の疫学や歴史、細菌学や病理学の最新の知識をわかりやすくまとめている。第3章は検査の進め方

で、日常診療でいかなるときに結核を疑い、どのように検査を進めるべきか、具体的な説明がある。胸部X線検査による画像診断、菌検査の古典的な塗抹・培養法、核酸増幅法や同定法、薬剤感受性検査の諸法が詳細に述べられている。感染の検査では、QFT-2Gを中心に、インターフェロン γ 産生量の測定の意義がわかりやすい。

治療に関する第4章では、発生病や入院届、医療費公費負担申請等を含む診断後の感染症法に基づく対応の手順が模式的に示されている。結核の診療は法律によっているところが大きく、感染症法で示された内容は一般医家や診療関係者は理解や実行がやや難しいが、ここの説明は現場で大いに役

立つと思われる。化学療法の項では、薬剤に関する基礎的説明や実際の処方、治療の進め方が最新の情報に基づいている。さらに治療を成功させるための支援法DOTS、入退院基準、クリティカルパス等、治療をもたらすための総合的なシステムの記述もある。

感染拡大防止に関する第5章では、特に院内感染防止の諸策が詳しく、本書の圧巻ともいえる。さらに発病予防としての接触者健診、潜在性結核感染症の治療等も具体的である。

第6章は症例検討で、10の症例が呈示されている。そのほか、エイズと結核、非結核性抗酸菌症に関する項もある。巻末資料には感染症法の結核に関連する条文も付けられ、便利である。

本書は結核診療に関係する方々にとって大いに助けになると確信する。

〔B5 頁212 2008年 定価
3,360円(本体3,200円+税5%) 医学書院刊〕